

地域福祉活動計画策定委員会 第4回委員会 会議録

1. 日時 平成26年4月8日(火) 13:30-16:00
2. 場所 小諸市保健センター 集団指導室
3. 参加委員等(15名)
中村委員長、山本副委員長、小川委員、坂本委員、相良委員、竹中委員、田中委員、中山委員、西川委員、福島委員、牧野委員、松本委員、三島委員、村上委員、望月委員、小林アドバイザー
欠席委員等(1名)
上野谷相談役
4. 内容
 - (1) 開会
 - (2) ここまで振り返りと今回の目的の確認…別添資料①を基に小諸市社会福祉協議会小山事務局長より説明。
 - (3) 報告事項
 - ① 情報公開の状況…資料P2～9を基に情報公開の状況を確認。
 - (4) 会議事項
 - ① 活動計画策定の流れ…別添資料②を基に策定の流れを確認。
 - ② 住民・団体意見交換会結果報告…資料P10を基に結果を確認。
 - ③ 住民アンケート結果報告…別添資料③を基に結果を確認。
 - ④ 分科会の役割について…別添資料②を基に役割を確認。
 - (5) 分科会…4分科会に分かれ、分科会資料を基に意見交換。
 - (6) 会議事項
 - ① 各分科会の報告…各分科会より本日の取り組みを報告。
 - (7) その他
 - (8) 次回会議(第6回)…平成25年6月3日(火)13:30～場所は事務局で調整とする。
 - (9) 閉会

議事要点

1. 開会

(委員長)：答申に向けて具体的な計画の中身の検討段階に入ってきた。本日は分科会で議論を深めていきたい。

2. 前回の振り返りと今回の目的の確認

(委員長)：事務局より説明を。

(事務局)：活動計画策定をカレー作りに例えた資料の中で現在地を確認すると、意見交換会やアンケート調査等により情報が集まった段階である。ここからは具体的なレシピ作りになり、今回は4つの分科会に分かれて、活動計画に取り上げるキーワードについて意見交換していただきたい。

3. 報告事項

(1) 情報公開の状況

(委員長)：事務局より報告を。

(事務局)：第3回地域福祉活動計画策定委員会に関する情報公開の状況を報告する。資料2ページから8ページは社協ホームページでの公開状況。9ページはマスコミの報道の状況となっている。また、本日もコミュニティテレビこもろや小諸新聞、東信ジャーナルの同席いただいている。

4. 会議事項

(1) 活動計画策定の流れ

(委員長)：事務局より報告を。

(事務局)：別添資料②を基に説明する。

計画の最終目標は第1回策定委員会にて「今の豊かな地域を維持する計画にする」と確認された。併せて、最終目標達成に向け、住民・地区・行政・社会福祉協議会等が果たす役割を整理していくことも確認された。計画の方向性は、以下の5つと確認された。①できていることを評価する②地域の声を反映する③親しみやすい表現④誰にとっても「わたし」の計画⑤今後の計画策定に向けた土台作り。

この方向性に沿った計画を作るに3つの方法で地域の情報を収集した。

1つ目、社会福祉協議会にある情報を「社協が聞いている声・地域の状況」「現状で社協が把握している数値化できる情報」という2つの視点から集約し第2回策定委員会で報告。

2つ目、住民・団体意見交換会の実施。平成25年11月から12月にかけて、23の地区や市民活動団体との意見交換を実施し、671の意見をいただいた。第2回策定委員会にて、この671の生データを資料として提供。本日の委員会の中で最終的報告予定。

3つ目、住民アンケートの実施。平成26年2月に市民544名を対象とした住民アンケートを実施し84名から回答をいただいた。この分析結果は本日の委員会の中で報告予定。

今後の流れを以下で提案する。

本日の策定委員会にて、活動計画に取り上げるキーワードを抽出。

第5回策定委員会(6月頃)にて、事務局素案第1版(今回の分科会で出されたキーワードをもとにして作成する素案)について意見交換。

第6回策定委員会(7月頃)にて、事務局素案第2版(第5回策定委員会分科会での意見交換内容を反映した素案)について内容確認。

第7回策定委員会(8月頃)にて活動計画の全体像を確定。

第8回策定委員会(9月頃)にて地域福祉活動計画の答申。

(委員長)：今後の策定日程は事務局提案を基本として、状況により調整を図りたいがいかがか。

(委員)：異議なし。

(委員長)：それでは、事務局提案のとおり日程で今後の策定委員会を調整する。

(2)住民・団体意見交換会結果報告

(委員長)：事務局より住民アンケート結果も併せて報告を。

(事務局)：住民・団体意見交換会で寄せられた意見を集約、分類した一覧をP10にて報告する。
意見集約する中で見えてきた特徴を報告する。

隣組や区に関しては見守りや支え合い体制に関する声が多い。

ボランティア・市民活動に関しては活動の継続や啓発に関する声が多い。

高齢者支援、障がい者支援、子育て世代支援に関しては、日常生活に関する支援や家族への支援、病気や障害に対する理解促進、地域交流機会の創出に関する声が多い。

地域福祉に関しては社協への要望、関係団体との連携に関する声が多い。

今回意見交換会を実施した先には、活動計画完成後に報告の場を設定。今回の意見交換会を契機として、社会福祉協議会と定期的に意見交換したいと要望があり、定期的に意見交換会を実施していく方向。併せて、区長会や民生児童委員の地区会の場を活用し地域の声を継続的に収集する。

(3)住民アンケート結果報告

(事務局)：住民アンケートの集計結果を報告する。

544通配布し、184通の回収。回収率は33.8%。質問項目ごとに報告する。

問1.性別：女性が男性よりも多い回答率。

問2.年代：年代が上がるにしたがって回収率も上昇。

問3.行政区：回収数は区によってばらつきがある。

問4.職業：無職と年金生活の回答が多い。

問5.家族構成：同居世帯が8割を超えている。

問6.家族の中で当てはまる方：高齢者と同居という回答が多い。

問7.ご近所との付き合い：程度の差はあるが、何らかの交流があるという回答が8割。

問8.ご近所づきあいに満足度：6割近くが満足感を持っている。

問9.区の行事への参加：6割近くが参加している。

問10.区とのかかわりの満足度：多くの方が満足感を持っている。

問11.趣味活動やボランティア活動：4割近くの方が活動に参加している。

問12.趣味活動やボランティア活動の必要性：6割以上の方が必要性を感じている。

問13.高齢者との関わり：4割程度は何かしらの関わりある。

問14.高齢者の暮らしへの関心：7割近くが関心を持っている。

問15.支援が必要な方との関わり：3割弱程度しか関わりがない。

問16.支援が必要な方の暮らしへの関心：5割以上の方が関心ある。

問17.子育て家庭との関わり：5割近くが関わりある。

問18.子育て家庭の暮らしへの関心：6割以上が関心ある。

問19.相談の有無：相談したことがあるという回答が4割。

問20.相談した機関：親族・友人・医療機関・市役所が多い。

問21.小諸の住みやすさ：6割近くが住みやすいと回答。

問22.住みやすさに必要なもの：高齢者の支援・子育て世帯への支援・障がい者への支援という回答が多い。

問23.住みやすさのために出来そうなこと：区の関係づくり・見守り活動が5割。

問24.福祉の印象：助け合い、困っている人を助けるが多数。

問25.社協の活動：障がい者支援・社協会費・介護保険サービス・地域づくりという回答が多い。

問26.社協に期待すること：高齢者・障がい者支援、地域づくりの回答が多い。

分析の詳細については分科会資料で確認願いたい。

(委員長)ここまでの報告に関する意見交換を行いたい。

(委員)住民アンケートに関して確認したい。問 4. で職業についての質問の回答選択肢に無職と年金生活者とある。この区別について教えてほしい。

(事務局)何らかの事情で職に就いていない方の選択肢を『無職』と想定していた。高齢者等年金受給者からすると紛らわしいものであったと感じている。適切な選択肢の設定とは言い難い。

(委員)次回アンケート実施時には回答選択肢に関して精査が必要だと感じる。

(委員)住民アンケートの回収率について感じることもある。対象者 544 名という母数ならびに 33.8%の回収率というアンケート結果は市民総意として捉えて良いのか。

(事務局)無作為抽出かつ返送方式の市民向けアンケートとしての回答率は低くはない。人口に対する母数設定並びに約 6 割が未回答という状況の中、このアンケートが市民総意とは言い難いが、ある程度の傾向が把握できたと評価している。

(委員長)このあとの分科会に事務局が同席するので、他に意見があればその場での確認をお願いしたい。

(4)分科会の役割について

(委員長)事務局より説明を。

(事務局)別添資料②を基に説明する。委員と事務局が 4 つの分科会に分かれて意見交換とする。割り振りは前回確認いただいた通りであり、資料参照。

意見交換で出されたキーワードを事務局が付箋紙に書き留める。そのキーワードを「できていること」と「こまりごと」に分けて共有するところまでが本日の分科会で進めたい。

5. 分科会…4 分科会に分かれ実施。

6. 会議事項

(1)分科会の報告

(委員長)各分科会の報告を。(各分科会で出されたキーワードを【 】で表記)

(第 1 分科会長)「地域でのつながりを考える」をテーマとして意見を交わし、以下のキーワードが出された。できていることとして【区内のつながり】【近所の挨拶】【高齢者の力の活用】があり、今後取り組むべきこととして【参加者の固定化】【高齢者による後継者不足】【若い力の活用】【認知症の方の支援】【個人情報の問題】への対策が挙げられた。

(第 2 分科会長)本分科会は生きがい・やりがいを応援することをテーマとして意見を交わし、以下のキーワードが出された。何がボランティアで何がボランティアでないかという視点ではなく、出来る範囲で自主的に何かを続けていることが大切。この情報発信のためには【社会福祉協議会とボランティアセンターの連携強化】が必要。また、市民活動としての高齢者支援・障がい者支援、子育て世代支援に関しては、日常的な【区の中での支え合い】取り組みが重要である。

高齢者クラブは広い意味でボランティア活動と言えるが、【会員数の減少】が課題と言える。

地区活動や民生児童委員活動に目を向けると、【役員の孤立、負担感】から地区役員や民生委員のなり手不足が問題。

(第三分科会長)「皆でささえあうために必要なこと」というテーマで意見を交わした。できていることとして【PTA の活動】、今後取り組むべきこととしては【障がい者の高齢化】、【障がい者の保護者の高齢化】、【障がいのある方は地域との関わり合いが持ちにくい】、【精神障がいへの偏見】、【児童と他世代の交流場面の減少】【発達障害への理解】が挙げられた。

住民アンケート結果からは「支え合いをしたい」「誰かのために何かしたい」「お年寄りや子供のために何かしたい」という思いはあるが、実行に移せない方が多いように感じる。

(第4分科会長)「支え合いの土台作りを考える」というテーマで意見を交わした。土台を「意識の土台」「組織の土台」に分け議論した。「意識の土台」における課題は【社協会費の減少】である。小諸市の社協会費は納付率が約53%と知り、驚いている。意識の土台が揺らいでいる要因として、【社会福祉協議会が知られていない】ことが挙げられた。対策として【職員が見える社会福祉協議会】にしてほしい。

地域の支え合いに関して、4区の活動と公民館活動は似通った活動が多い。【社会福祉協議会と公民館の連携】を深めていくことが必要である。

(委員長)各分科会のキーワードは、支え合いの枠組みの検討、支え合いの中身の検討に分けることができる。

枠組みを作り上げることで中身が充実し、また枠組みが作り上げられる。社会福祉協議会に対する期待も多いので、社会福祉協議会としての具体的な取り組みにもつなげてほしい。事務局よりコメントを。

(事務局)社会福祉協議会への期待を強く感じた意見交換となった。社会福祉協議会は、市民や各種団体、行政に対して様々な提案をしていく専門性を身に付けていくべきだと考えている。

7. その他

(委員長)県社協の視点からコメントを。

(アドバイザー)今後の取り組みとして、以下の3点を大切にしてほしい。

「固定観念を捨てて、新しい発想で考える」…「高齢化は悪いことではない」「高齢者の力の活用」と分科会でも意見が出されていた。県社会福祉協議会では「人生二毛作」をキーワードとして、高齢者の生きがいと役割のある社会づくりをすすめている。従来の課題は本当に課題なのかと問い直し、新しい発想でものごとを計画策定に取り組んでいただきたい。

「もっと組み合わせを考えよう」…各分科会で話されていたように、様々な場所で様々な活動が行われている。これらを組み合わせることで大きな力となる。重要なのはコーディネート力であり、これは社会福祉協議会の専門性と言える。

「論より証拠」…議論を重ねること以上に大切なことは、実際の様子を繰り返し確認すること。すべてを確認することが難しいので、地域の中にある、人・モノ・資源を活用して欲しい。

余談ではあるが、以上のキーワードの頭文字で『こ・も・ろ』となる。

8. 次回会議

(委員長)事務局案の提示を。

(事務局)第5回策定委員会を6月3日(火)13時30分から開催したい。場所については追って連絡としたい。

(委員長)異論なければ事務局案としたいがいかがか。場所については事務局で調整を。

(委員)異議なし。

(委員長)予定していた議事は以上。閉会とする。

9. 閉会